



ふた ば  
双 葉

愉しく 仲良く 元気よく

志を持ち国際社会に羽ばたくシカゴっ子

校長： 長谷川 雄一

## 進路を考える時期

シカゴ双葉会日本語学校 全日校

(シカゴ日本人学校) 校長 長谷川 雄一

「寒さにふるえた者ほど太陽の暖かさを感じる。

人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る。」アメリカの詩人 ホイットマン

このような言葉を残した方は他にも世界中にいます。ドイツの作家 ゲーテ、江戸時代の水戸藩主 徳川光圀も同様な言葉を残しています。古今東西、人が生きていく上で、大切なことは同じ教訓があるようです。

学校では双葉フェスティバルに向けての取り組みが熱心に見られるようになりました。今年度のスローガンは、『百花繚乱 ～大舞台で双葉を芽吹かせ、輝く花束を作り上げよう～』です。児童生徒が話し合い決めました。小学部児童による英語の歌の合唱練習は本番さながらの大きな声での練習風景が見られます。各学級、中学部はそれぞれに工夫を凝らした発表を考えているようです。ぜひお楽しみにしていただければと思います。この原稿を書いている時点ではある教室に「あと11日みんなで力をあわせて」とありました。

さらには、教職員の研究も進み、わかりやすい授業を創るために、多くの先生方が授業を公開し、互いに参観しあう姿も日常的に見られるようになりました。そうした教職員の生き生きとした姿は児童生徒に伝わり、活発な授業が展開されています。本校児童生徒の生活面でのおちつきと明るさ、多彩な創造力、互いを尊重しながら意見を交わす様子、ネイティブスピーカーとの少人数での活発な英会話授業、水泳教室等による現地インストラクターによる英語での指導、授業中だけでなく日常生活における現地スタッフとの英語でのコミュニケーションなど、将来が楽しみになる光景が広がっています。

中学3年生は義務教育修了まで残り半年となります。間もなく具体的な受験のための事務手続きが始まります。都道府県により差はありますが、関東首都圏では私立学校の学校説明会や学校見学・相談会が夏休みから各校で始まっています。日本国内では中学3年生は、全国大会出場以外ほとんどの生徒が部活動を引退しており、夏休みから受験勉強モードとなります。この土日は学校訪問や事前相談会に忙しく、服装や受け答えの指導が行われている最中です。同時に民間や各地区の公的な模擬試験も行われ、最終的な志望校絞りに入ります。ただ、この時期に気持ちが不安になりフラつくと、成績が落ちだします。今まで部活動ざんまいの生活をしてきた生徒がこの時期から成績をどんどん伸ばし、その勢いに飲み込まれそうになってしまう生徒もいます。賛否両論はありますが、日本の受験制度が子どもたちに様々な刺激を与え、鍛えるとともに、人生を考える大きな機会となっています。

こんな生徒がいました。

彼は明るく誠実で周囲から信頼のある生徒です。学校のリーダーであり、剣道部に所属していました。志望校は当時その地域の人気ナンバー1の私立高校で、全国から生徒が集まり、その多くが生徒会長経験者という学校です。高校生活は大学の授業並みの探究型の学習形態でクラスそのものがなく、完全に大学のような高校生活（家庭から通う生徒も少なく、ほとんどが民間の寮や賄（まかない）付きの民宿生活）です。担任として当然応援していましたが、懸念はありました。あと一步の成績の伸び悩みがありました。こうした学校への合格者の特徴は、学習成績はもちろんですが、それ以上に将来に向けた明確な目的意識があります。たとえ入学できたとしても、中での学習についていなくなります。精神的にも成長していないと、点数や偏差値だけでは太刀打ちできないのです。そうした意味で結果的に生徒会長経験者が多くを占めるのかもしれませんが。（この学校は内申点で生徒会長等の加点をしない学校でした。）

結果は不合格。放課後の教室は校舎の3階の一番端で西日が照り付けていました。結果を知らせ、二人で今後について話をしました。彼は終始泣いていました。無理を承知で受けても、結果を知ると冷静にはなれません。泣き続けるばかりで、担任としても話の進めようがありませんが、すぐに次の出願に向けて公立か私立かの判断が迫られていました。しかし、どうしたらよいのか、中学3年生に決断を求めるのも酷な状況でした。とつさに出た私の言葉は、「将来何になるつもりで〇〇を受けたんだい？」すると、「自分は高校に行ったら考えようと思っていました」とのこと。彼が今一つ伸び悩んでいたのはこれが最大の理由でした。最終的にはやはり目標を明確にしている生徒はたくましく強いです。「エスカレーター式に大学にも進学できるし、あの大学はマスコミや弁護士になる人が多いので、そんな感じで考えていました」しかし、道は閉ざされたわけです。明日には次の出願を迫られている中、次への一步が必要でした。長い沈黙の後、その時間に耐えかねて私の口から出た言葉は「あそこに合格してエスカレーターで大学に入れても、あそこには医学部はないよな。もしかした

ら、神様がおまえを医者にするために落としてくれたのかもしれないよ」今から考えると、彼はどちらかと言えば文科系の生徒で、教員としては暴言に近い発言でしたが、口から出た言葉は思いついた言葉のみでした。彼はその後、お家の方と話し合い、別の私立高校へ進学していきました。風の便りで自宅から片道2時間半をかけて電車を乗り継ぎ、がんばっているようだとの話が聞こえてきました。

それから10年近くがたちました。私の手元に一通の手紙が届きました。

「先生、私のことを覚えていますか？ 私はいま国立の〇〇大学の医学部でインターン研修を終え、いよいよ医療の道へ進むことになりました。あの時のことは今でも鮮明に覚えています。あの時、先生が言ったことが、いつも頭にあり、医者になる決意をし、学業に真剣に取り組みました。ありがとうございました。」

私はなんと表現してよいのか、しばらくその場を動けませんでした。よく考えた言葉でもなく、なんとか前を向かせようと思い、口からでた言葉に10年以上も向き合ってくれたのだと、逆に申し訳ない気持ちになりました。

彼はその後、私が再びその中学校の校長となると、親から聞いたのでしょう。お祝いの言葉と近況を知らせてくれました。その後、救命救急医療の医師として順調に仕事を重ね、最近では心臓外科の専門医として活躍しているとのことでした。

実は私はこの中学校が自分の母校でもあり、20代、30代、50代と3度にわたり勤務した学校です。最後の校長時代には保護者の多くが以前教えた生徒たちで、その生徒たちが親となる子どもたちも見てきました。社会的な立場や役職だけではなく、それぞれが自分の決めた道を様々な形で歩み、家庭を持ち、親として社会人として立派に役割を果たしながら生きていました。校長として助けられることも多くあり、それらすべての生徒たちが私の誇りでもあります。

わが子の教育、そして多くの児童生徒の教育に関わる中で、私が進路指導をする上で確信を持って言えることが以下の5点です。

1 学齢期の教育は極めて重要で、特に心を育てることが重要です。それが子どもの一生を通じての物の見方や考え方、人との関わり方、行動の仕方すべてに繋がります。これなどは、後から述べる若田光一さんやノーベル賞受賞の研究者からもわかります。

2 進路選択は点ではありません。長い人生の通過点です。どのような結果になろうとも、それを子どもが自分自身で乗り越えていく過程が最も大切です。生徒が自分自身で決め、自分の進路に責任を持

たせる厳しさが必要になります。結果は大切ですが、それを通して人として成長することがさらに大切になります。

3 小中学生時代の興味や関心、得意教科や分野、環境が職業につながる率が極めて高いです。身近にどんな本が置いてありますか。どんな人がいますか。どんな経験をさせていますか。家族でどんなお話をしていますか。

4 学校を知る。高等学校は通過点です。さらにその先をどう考えるかで大きく変わります。時間の無駄のようですが、学校の様子をよく見て聞いて、調べることが重要です。前述のような生徒の自主性や自立的な学びを重視する学校があれば、首都圏の有名大学受験対策に特化した学校もあります。高等学校によっては、公立学校でも大学への推薦合格枠を持つ高校もあり、附属でなくても学業成績の優秀な生徒はそのまま大学へ進学できる道もあります。学習指導だけでなく、生徒指導がきちんとしている学校かどうかのポイントのひとつです。あまり知られていないことですが、成績が優秀な学校の生徒は生徒指導がいらぬかというところではありません。前に述べた高校も、生徒指導の課題は他の学校とかわりません。いじめもあります。外部の公的機関が関わることもおきます。

私の日本人学校時代の生徒は、第一志望校に入れましたがいじめにあい、中途退学し、精神的に病むこととなりました。40代になっても定職にはつけず、20年近くほぼ毎週元担任に電話をかけてくる状態が続きました。学校選びのひとつの見極めのポイントはいじめがあるかないかを聞いてみることです。「優秀な生徒が集まるわが校にはそのような生徒はいません」「いじめなど聞いたことがないです」「年にいくつかはあるので、アンケート調査をし、早期に発見するように意識を高くしています」「どの学校・生徒にもいじめは常に存在します。常にアンテナを高く張り、教員間の情報交換をしています」さて、いかがでしょうか。当然、後者のほうが最近の法令をよく調べ、教員に研修をさせている学校、バランスのよい全人的な教育を大切にしている学校と言えるでしょう。

5 家族が仲よく明るく生活すること。実はこれがすべての根底にないと、子どもは安心して学業に取り組むことができなくなります。私は数年前、ある目的でノーベル賞受賞者の学校を毎月訪問する仕事をしていました。結論からすると、学校がノーベル賞を生んだわけではなく、ごく普通の農家に生まれた子どもが、周囲の自然環境に興味や関心を持ちながら、興味のある世界を深く考えるようになり、好きな研究の道に進んだ結果が偶然（賛否両論ある表現でしょうが）ノーベル賞につながり、その根底には家族の温かい愛情と周囲の理解と応援があったからだと思われました。同じようなことが宇宙飛行士の若田光一さんのお母様からも感じたことがあります。県教委の教材づくりでどうしても若田光一さんを取り上げたいと思い、JAXAに許可を求め、若田光一さんの子ども時代の写真をなんとかお借りできないかとお母様に連絡を取らせていただいたことがあります。「この母にしてこの子あり」まさにそのとおりでした。国際宇宙ステーションの船長にもなり、日本人最多飛行回数宇宙飛

行士となり、国際的にも評価の高い若田光一さんは、こんなお母様に育てられたからなのだなと実感しました。ちなみに JAXA の方のお話では、選考試験では若田さんよりも優秀で評価の高い方がいたそうです。それがどうしてこうなったかは、お答えいただけませんでした。それこそ、人生のおもしろさと言えるかもしれません。「ここに合格できなければ、先はない」と言うことはないのです。今年度、中学3年生は現在6名が在籍しています。6名の生徒の健闘を心から応援しています。

## ☆ご寄付をいただきました☆

先日、Daido Steel (America) Inc, 坂田 優一郎 様がお越しになり、双葉会に USA 5, 000 ドルのご寄付を頂戴しました。ありがとうございます。教育活動に有効に使わせていただきます。翌日には、OKAMURA CORPORATION Katsuyoshi (Kai) Ito 様よりお洒落な事務用椅子を2脚ご寄付いただきました。ありがとうございます。教職員の職場環境の改善に活用させていただきます。

## ○双葉フェスティバルに向けた避難訓練を行います。

双葉フェスティバルに向けて会場の準備や舞台発表の練習が進んでいます。それに伴い、2日に避難訓練を実施します。状況設定は、投影ライトからの出火により、全校児童生徒を校庭北側に避難させる計画です。火災発生と共に照明が消え、煙やガスの発生が予想されます。あわてずさわがず、しゃべらず押さず、おちついて避難するように指導します。日本国内では、ハンカチを口や鼻にあてて煙を吸わないように防ぐことも指導します。ここアメリカではハンカチを持つ習慣がないようで、本校の児童生徒も見たことがありません。一応当日はそのようなこともお話しさせていただきます。

(その日特別にハンカチを持参させなくてよいです。)

当日は多くのご来賓や保護者の方がご来場予定です。もしもの際には、教職員が児童生徒を最優先に避難させ、同時に教職員が来場者の避難誘導も行います。火災発生時は暗闇の中で炎が見え、猛烈な煙が発生しますので、子どもも大人も大きな動揺が予想されますが、指示に従いおちついて避難すれば、全員の命を救うことはできます。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、コロナもまだ終息しているわけではありません。ちらほら見られます。体調不良の児童生徒、ご心配なご家族の方は無理をせず、自他を守る意味からも登校をお控えいただければと思います。体育館での1日の教育活動ですので、集団感染を避ける意味でもよろしく願いいたします。

## ○修学旅行に行ってきました。

9月6日(水)～8日(金)2泊3日、小学部6年生14名全員でワシントンDCに修学旅行に行きました。お天気はシカゴより蒸し暑く、現地の方も驚く暑さが続いているとのことでした。そのせい

か、道路の渋滞もなく、観光地もどこもすぐに入場することができました。（ワシントンモニュメントだけは予約時間を1時間以上過ぎて待たされましたが）児童はアメリカの首都であり世界を動かす政治の中心地を実感した様子でした。スミソニアン自然史博物館（ガイドさんによると正しくはスミソニアンだそうです）やナショナルギャラリー美術館等はすべて無料で入場でき、ハリーポッターの舞台のような国立公文書館等を見学し、全員が元気に3日間の日程を無事に終了できました。こちらでも10年以上双葉会の修学旅行を担当されているガイドさんにお世話になりましたが、2日目の最終見学地で転倒され、3日目のガイドさんが変更となるハプニングもありました。帰りもオヘア空港上空で気流の状態が悪く1時間近く旋回し、さらに1時間近く誘導路でも待たされました。解散は10時を過ぎ、保護者の皆様は3時間以上お待ちいただくことになりました。たいへんご心配をおかけしました。朝早く夜遅くの送迎やお弁当づくり、代金のお支払い等、ご理解とご協力をいただきありがとうございました。

余談ですが、上空待機の際に機長さんからアナウンスがありました。機転のきいたジョークを交えた説明で、乗客は怒るどころか笑顔で笑い声が聞こえました。降機時にも乗務員に笑顔でねぎらいとお礼を言う方も多くいました。日本ではこんな時にジョークなどとんでもないと怒り出す人やCAさんに苦情や文句を言う人が必ず出て機内の雰囲気は最悪になりますが、社会的なルールや振舞い方が教育により身につけているのだなと感心しました。アメリカ人の心の余裕を垣間見た気がします。

（これは家庭教育なのでしょうか、学校教育なのでしょうか？わかる方どなたか教えてください）

## ○学力調査を読む

前回速報でお知らせしました学力調査です。

全学年が全国の値と比較して正答率が高くなっています。このテストの結果の中では、課題のある学年（全国値から下位にある学年や教科）はありませんでした。細かく分析すると、本校の児童は国語・算数ともに全国と比較してかなり上位にあります。どちらかと言えば国語のほうが算数より少し上位です。海外の日本人学校で学ぶ子どもとしては、国語がよいと言う結果はたいへんよいことです。なぜなら、国語の読みとり、書きとる力はすべての教科の学習につながるからです。こうした力は上級学校に行けばいくほど差が表れてきます。そして、取り返しがなかなかつかない部分でもあります。本校の児童は読書好きです。この習慣を続けることが大切です。タブレットでの学習もありますが、幼い時ほど声を出しての本読みや、日記を書く習慣が時代遅れのようなのですが、着実に力をつけていけます。さらに見ていくと、国語・算数ともに、本校の児童は知識・理解度や、思考・判断・表現力、主体的に取り組む態度が極めて高くなっています。ここから見えることは、素直によく学



習に励んでいる姿です。日常の教室での授業風景がまさに数値に表れていると言えるでしょう。引き続き、自信を持って学習に励んでほしいと考えています。

現在、幼稚園・小学部・中学部共に、探究学習を通じて多角的な視野を広めながら、プレゼンテーションの力をつけさせていこうと考えています。地域での学習や身近な生活のSDGSを通じて、ローカルから始めながら、将来的にグローバルに考え行動できる児童生徒を育成したいとの研究です。こうした教員側の取り組みが、さらに本校児童生徒の学力向上に繋がられればと考えています。

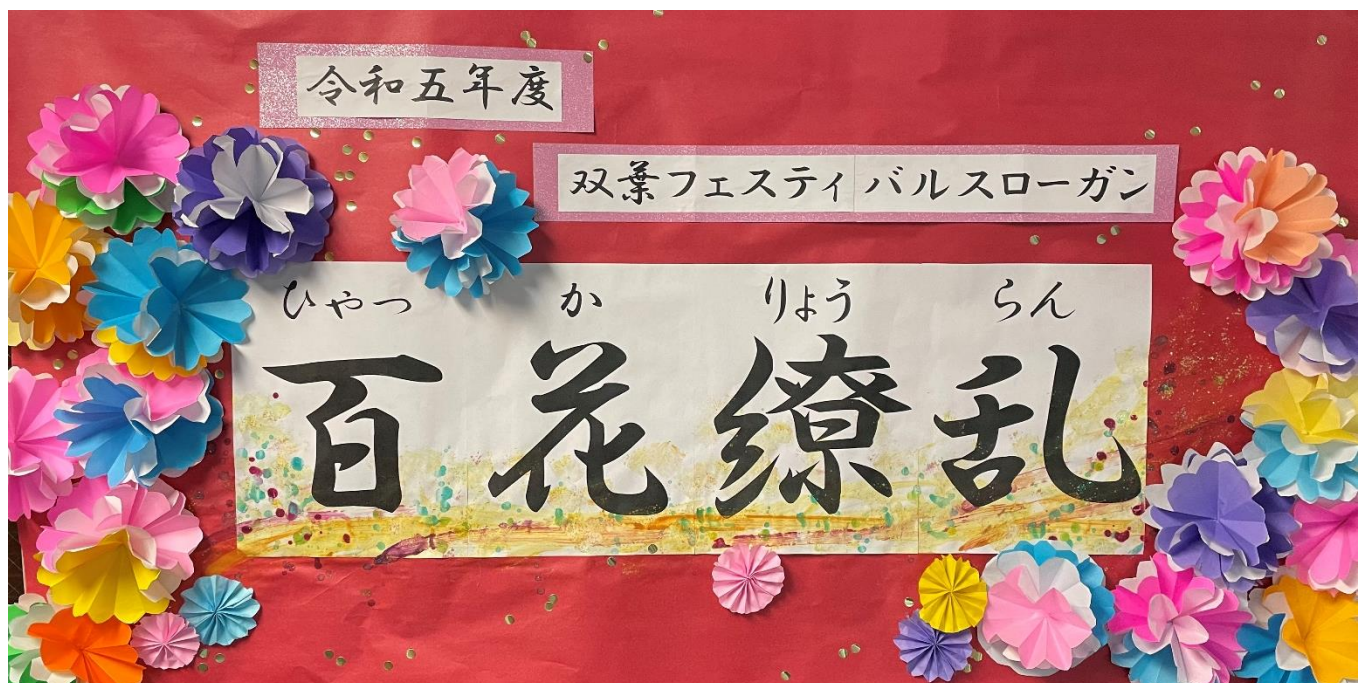
## ○交流学习・地域交流が予定されています

間もなく、現地校との交流や地域に出かけての交流学习等が始まります。アメリカの文化や歴史、宗教、地域の人々に触れるよい機会となります。宗教的な部分に触れる教育活動も出てきます。基本的には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきたいわけですが、各ご家庭の宗教的な面での配慮が必要な場合は、遠慮なく担任の先生にご相談ください。

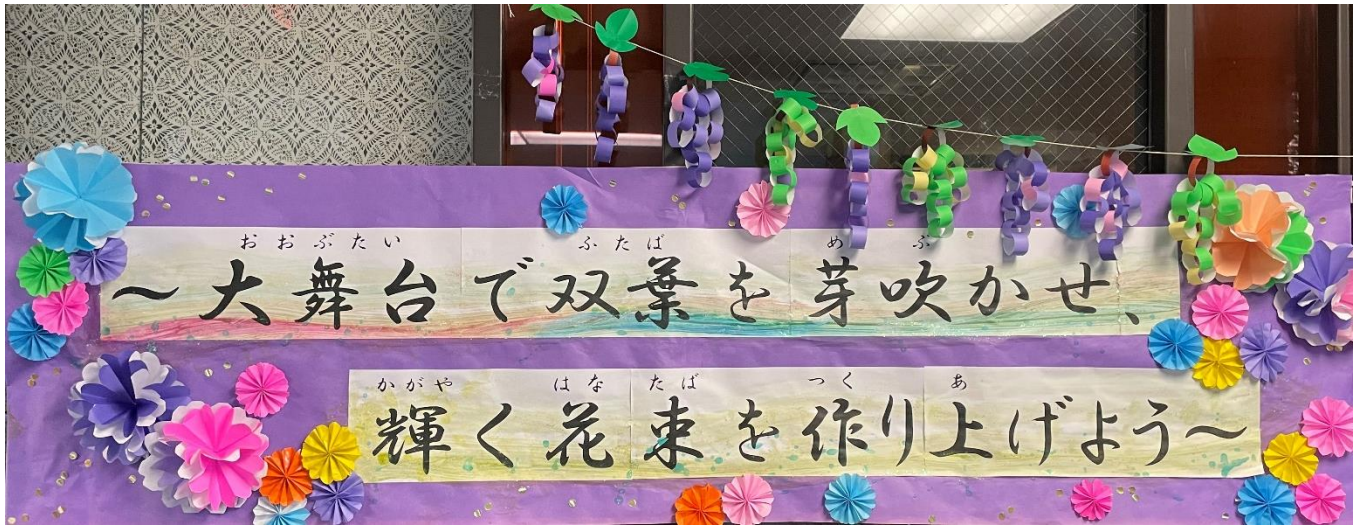
## ○スキー教室 今年から中学1・2年生も小学5・6年生も1泊2日です

スキー教室が予定されています。中学部の1年生・2年生、小学部5年生・6年生とそれぞれに計画がされています。今年から小学部も1泊2日が予定されています。近くなりましたらそれぞれに説明会を開催いたします。

\*ここまでの文責は校長にあります。これ以降は教頭先生が写真や文を掲載してくれています。







毎年、各クラスから集まった言葉を小学部双葉委員会と、中学部生徒会の子どもたちが、思いや願いを伝え合って、1つのスローガンに作り上げるのが、この学校の伝統です。低学年（1・2年）の子どもたちは、スローガンの飾りつけを担当しています。折り紙で、きれいな花やブドウの房を作ってくれました。全校で作り上げたスローガンです。



「友だちって何だろう。」



5年生成成の「方言マップ」

「方言マップ」より

岡山県 車がめげる。→ 車がこわれる。 あの犬のほえ方はきょーてー。→ おそろしい。

千葉県 こんなでれすけ見たことない。→ だらしのない人。

これくらいあんとんね。→ 何ともない。

兵庫県 そんなに食べてべっちょないか。→ 大丈夫。

徳島県 お腹がおきた。→ お腹がいっぱい。



10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2 全校朝会⑤ 避難訓練⑤lh 和太鼓演奏(6限)	3	4 通学委員会② 10:30~	5 フェスティバル 前日準備	6 双葉フェスティバル	7
8 第二回英語検定	9 Columbus Day Indigenous People's Day	10 委員会⑦ 水泳2年・4年②	11 シカゴ集会⑤ 水泳3年・5年② PTA執行部会	12	13 幼稚園秋の遠足 水泳1年・6年②	14
15	16	17 英語科授業参観 (~20日) クラブ⑥ 水泳2年・4年③	18 水曜集会⑤ 実力テスト② 水泳3年・5年③	19 水泳1年・6年③	20 スケート中学①	21
22	23 読書旬間中3進路相談開始(~30日) スケート1・2年①	24 スケート3・4年①	25 図書委員会集会 スケート5・6年①	26	27 漢字検定 スケート中学②	28
29	30 スケート1・2年②	31 5時間授業 下校14:40 (ハロウィーン)				

※当初の年間行事予定表からの変更点

(最新のをHPにアップしますので、ご覧ください。)

- ① 小学部の個人懇談会 11月27日(月)~12月1日(金)へ変更
- ② 中学部1・2年の学級懇談会 3学期へ変更
- ③ 地域コンサート(昨年度までの教会コンサート) 10月12日 → 11月へ  
今後も変更する場合は、できるだけ早くお知らせいたします。よろしくお願いいたします。

※今年もPTAブックリサイクルを実施します。

来週、児童生徒に読みたい本を1~2冊プレゼントします。

本を入れる袋(レジ袋)を持たせてください。素敵な「しおり」も1人1枚あります。

## 英語部からハロウィーンについてのお知らせ

### 1 仮装について

英語部では、異文化理解教育の一環として10月31日（火）の授業でハロウィーンについて学習します。その際、任意ですが、仮装用コスチュームを着用してもよいことにしています。

着用する場合には、以下の点に留意しながら仮装用コスチュームをご準備頂けると幸いです。

○衣装は学校に持参し、学校で着替える。

○衣装は自分で着脱できるものとする。（授業前後の休み時間に教室の自席で着替えを行います。）

○顔を覆ってしまうマスクや被り物、剣・銃・ステッキ等の他者を傷つける可能性のある小道具は禁止です。（安全面が最優先となります。）

※各学年の英語授業に合わせて、参観が可能です。

※授業後に写真撮影の時間を設けますので、授業中の撮影はご遠慮願います。

### 2 ハロウィーン当日の短縮授業について

10月31日（火）は地域のハロウィーン行事へ参加し、アメリカの文化を体験する機会になるように5時間授業、下校時刻を14:40とします。英語授業の中で、ハロウィーン行事に参加する際の留意点等をお伝えします。

## オフィスからのお知らせ

① 授業料の納入にご協力いただきまして、ありがとうございます。

期日までに郵送、送金手続きを完了していただいた場合は、その後の到着が遅れていても延滞料は発生しませんので、ご安心ください。

② 入り口でのIDカードの提示にご協力いただきまして、ありがとうございます。

校内にいる間は、首にかけるか、胸ポケットに提示するなど常時分かるようにしていただくと、セキュリティーガードが判断できますので、ご協力ください。